

第3章 観光まちづくりの基本的な考え方

1 観光まちづくりのコンセプト・下田市の生かすべき価値

下田市の観光まちづくりを進める上で大切にすべき事項を整理し、コンセプトを設定します。市民ワークショップや来訪者アンケート等からの意見を踏まえ、以下のキャッチフレーズをコンセプトとします。

下田市の観光の価値は「日常にある本物」 下田のオーセンティックとして、変わらない地域の営みを残し生かす

下田市の観光の価値は、日常にある生活や風景に来訪者が触れ、参加できることです。美しい海、開国の舞台となった歴史的資源、この地域ならではの水産物の水揚げなどの営みは、過度な演出をせずとも、来訪者に非日常を感じさせる魅力を有しています。このような要素を、下田市における「日常にある本物（オーセンティック）」であると位置付けます。

こうした魅力は、歴史・自然・生活文化という要素が、相互に結びつくことで生まれるものです。例えば、地域の歴史を伝えるまちなみやそこの祭りの営み、日常的な市民の過ごし方など、地域の暮らしそのものが観光資源となっています。そして、それらは訪れる人々に他に代えがたい「真実味」と「温かさ」を伝えます。これらは来訪者に独自の魅力を提供すると同時に、地域住民が自らの文化を誇りに思うきっかけとしても重要です。

本計画における「日常にある本物（オーセンティック）」は、開国の歴史から現在に至る多様な文化の交錯の中で培われてきたものです。開国の歴史観光、ビーチリゾート観光、みなとまちのまち歩きや温泉、海産物を中心としたグルメ観光などこれまでも多くの観光客をひきつけてきたコンテンツの多くは、市民の日常の営みとしても根付いてきました。さらに近年では、多地域居住や移住者の増加、ノマドワーカーの来訪、海外からの観光需要の高まり、インクルーシブ観光（バリアフリーや多様な人々が楽しめる観光）など新しい動きが生まれています。こうした変化を前向きにとらえ、市民の営みと来訪者との接点をつくる視点を持ち、地域の持続的な発展につなげていきます。



2 観光まちづくり推進計画策定の考え方

(1) 5年間を目安として成果を上げるための優先事業の整理と役割分担の明確化

これまでも、下田市では観光まちづくりの施策として多くの事業を進めてきました。その評価をもとに、第3次観光まちづくり推進計画として、実行性のある計画として重要課題に対しての優先事業を着実に実施するための計画とします。そのため、本計画はあるべき将来に近づくための5年間のアクションを位置付けるものとします。

また、観光まちづくりにおける行政、観光協会、商工会議所、地域団体、民間事業者など役割の整理を行います。宿泊や物販・飲食等施設の運営やイベント、観光コンテンツの提供などの主体は、民間事業者や市民等であることを認識し、下田市はそれらを支える制度的なフォローや土地利用、景観整備、道路整備や公共交通等のインフラ環境整備を行うことに注力すること、他、官民連携により観光にかかる推進体制構築・運営を推進します。

さらに、観光まちづくり施策は、分野横断的な性格から、下田市全庁的に取り組むべき内容が含まれるものです。庁内各課の連携による推進体制のもとで、計画の推進にあたることを位置付けます。

～優先事業の整理～

5年間の実行性のある計画として、実施事項の絞り込みのもとで、効果的に事業を進められる方策を描く。



そのために、行政、民間・関係団体での役割明確化

下田市の役割～まちづくり・地域の生活との共存の観点～

- 事業がしやすい環境・仕組みづくりの面から支援
- 各種調整、制度づくり、インフラ整備など
- 外部協力者等との関係構築のための支援・仕組み・環境づくりの面から支援

地域事業者・市民の役割

～観光産業振興・観光誘客の観点～

- 観光事業の主体者として、観光コンテンツの創出・提供、サービスの提供・改善、施設整備、誘客の実施など
- 観光業での雇用環境改善
- 地域観光まちづくりの取組推進

観光関係団体の役割

～施策の推進の観点～

- 観光戦略の立案
- 戦略に基づく観光誘客の実施、観光消費額拡大の実行・支援
- マーケティング情報の収集・共有
- 観光戦略についての関係者合意形成

(2) 下田市の「日常にある本物」を生かすための戦略を描く

コンセプトに示す「日常にある本物」を生かすためには、来訪者と、この「日常にある本物」との接点をいかに創出するかが重要です。地域の営みと触れ合う滞在コンテンツの充実、市民の日常に触れられる飲食や物販、祭りを通じた来訪者との交流などにより、地域と来訪者との関係性を構築していきます。これにより、滞在時間の延伸と市内消費の増加を図るとともに、市民にとっての生活の質の向上や誇りの醸成につながる好循環を目指します。

また、歴史や自然、文化といった多様な資源を有機的に結び付け、コンセプトに示す「日常にある本物」という軸のもと明確な優先順位を持って磨き上げることで持続可能な質の高い観光まちづくりを推進します。



3 計画推進の方向性

観光産業振興・観光誘客、まちづくり・地域の生活との共存、施策の推進の3つの観点で、計画推進の方向性を示します。以下では市が実施する施策の方向性と、その中で特に必要な事項として優先的に推進体制構築のもとで着手・実行していく内容を示します。なお、特に必要な事項の他、情勢変化の中で実施が求められる事項については、随時各主体と検討をしながら推進体制・予算確保の上で進めるものとします。

その1 観光産業振興・観光誘客の観点

～民間事業者・市民による観光事業推進・観光まちづくりの拡大～

下田市では、宿泊割合や単価の高さに加え、リピーターや紹介意向が強いという特性を生かし、観光消費額をさらに高める取組が求められています。みなとまちとしての活気、下田温泉の魅力や商店街・飲食店に残るオーセンティックな魅力を磨き直し、四季を通じたコンテンツづくりを支援し観光産業の活性化を図り、夏季に偏る観光需要の平準化を図ります。また、観光を契機に新たな仕事や雇用を創出する仕組みを整備し、地域に根差す担い手人材の確保・育成を進めることで、市民が主体となる観光まちづくりを拡大していきます。

観光振興に向けた具体の取組は、宿泊・飲食・物販、体験、交通等の事業者や地域の担い手による創意工夫が中心となります。市は、事業者等の取組が進みやすいよう、必要な情報・ノウハウの提供、人材育成、関係者間の連携づくり、資金調達支援、受入環境整備等を通じて後方から支えます。

【目指す姿】

- ・日常にある本物を大切にした観光推進をしていく。
- ・経済の持続可能性を高めるために宿泊数増加、消費拡大による単価の向上。宿泊数を増やし特に地域に根差す宿泊施設、商店街や飲食店での消費拡大、夏季に集中する観光交流客数の通年平均準化を目指す。
- ・観光業の担い手人材の発掘、育成、確保を行い、観光産業の持続発展を目指す。

【目指す姿に対する現状】

- ・宿泊の割合は8割強と高く、平均単価も県平均より高い。現状リピート意向、紹介意向は非常に高い。
- ・市民からも新たな仕事生まれ、雇用が増えることを望む意向が高い。
- ・日常の営みとの接点は、知る人ぞ知る価値であり、まだまだ知られていない部分が多い。

【方向性のイメージ】

下田は宿泊割合と単価が比較的高く、リピーター・紹介意向も強いという土台があり、観光体験の高付加価値化により、観光産業消費額の拡大支援を図ります。

【観光産業消費額の拡大支援】

- ・観光消費額をさらに高めるための宿泊施設魅力化、通年型の観光、高付加価値化の仕組み構築
- ・下田のオーセンティックを生かすコンテンツ・サービスなどマネタイズのためのノウハウ提供

情報共有や協業を生み出す場を設けることで、コンテンツ造成・資金確保・販売促進まで、市内横断の付加価値創出を図ります。

【事業者の動機付け・連携支援】

- ・事業者同士の情報共有、連携を促す交流機会の創出

事業承継や新規創業のチャンス、人材不足を背景に、多様な働き方創出による観光産業の継続と活性化を図ります。

【担い手発掘確保育成支援】

- ・観光事業の担い手人材の確保、雇用環境の改善の支援
- ・事業継承・スタートアップの支援

【特に必要な事項】

観光産業振興・観光誘客の観点から、特に必要な事項について以下に示します。各年度において実施計画の整理及び推進体制構築の上で実行します。

観光消費額をさらに高めるための通年型の観光、高付加価値化の仕組み構築

目指すこと	事業者が通年型の観光により消費機会の拡大を図ること、高付加価値化により消費単価を高めること。
やること	コンテンツの開発・実証、実施にかかるマーケティング調査の実施などを、ノウハウ提供や資金調達等で支援します。
担当	観光交流課



観光事業の担い手人材の確保、雇用環境の改善の支援

目指すこと	観光関連事業者における担い手人材の確保と、事業承継・新規参入を含めた持続可能な観光産業基盤の構築。
やること	事業承継や時代に即した新たな事業者の育成を支援するとともに、魅力的な職場情報の発信や移住・定住・関係人口施策と連動した人材誘致を支援します。あわせて、副業・兼業等の柔軟な働き方の導入や生産性向上を図り、外国人を含む若手からシニアまで、多様な世代が活躍できる就業環境整備を支援します。
担当	観光交流課 産業振興課 企画課



事業者同士の情報共有、連携を促す交流機会の創出

目指すこと	事業者が様々な取組を共有し、連携による新たな下田の魅力を作り出すこと。
やること	観光事業者をはじめ、一次産業や市民活動など関連する取組推進を担う皆様に参加できる情報交換・交流会の開催を支援します。新事業創造や事業者連携などの新たな動きを生み出す機会創出、アクションのためのノウハウ提供や資金確保の検討などが支援できる仕組みの構築を進めます。
担当	観光交流課 産業振興課



その2 まちづくり・地域の生活との共存の観点

～行政による市民の生活・文化・環境を守る仕組み・環境整備～

市民が誇る古いまちなみや港、里山の景観、自然環境を守ることは、下田市の観光の基盤であり、市民が安心して暮らせる環境づくりと不可分です。そのため、市は、ルールづくり、インフラ・公共空間整備、運用体制の構築等を通じて、観光と市民生活の両立を支える基盤を整えるとともに、祭りや地域行事等を通じた交流機会の創出を図り、観光によって市民と来訪者双方が潤う持続可能な観光まちづくりを実現します。

【目指す姿】

- ・市民が楽しむことができる観光、来訪者との交流により生活が豊かになること、市民の観光との関わりの場を増やすことを目指す。

【目指す姿に対する現状】

- ・市民は古くからのまちなみや風景、山の環境が守られることを望む傾向が高い。
- ・市民の観光への満足度は低く、道路渋滞、ごみのポイ捨てなどの観光による悪い影響への意見が多い。
- ・市民と観光客との接点は、祭りでの交流など限定的。

【方向性のイメージ】

日常にある本物をつくる、古くからのまちなみや風景を守り、活用していくために、下田の歴史文化の保全と周知を図ります。

【歴史文化の保全と周知】

- ・下田の暮らしと文化についての市民への価値を再認識する機会の創出
- ・観光来訪者と地元住民との交流機会の創出
- ・黒船祭における交流拡大・認知度向上
- ・伝統芸能の保全
- ・下田まち遺産の活用・保全

魅力の基盤である海・山・まちなか等の景観を守るため、保全活動の推進とルールの整備、公共空間の維持管理を強化します。観光利用と生活環境の両立を図ります。

【市内の環境整備・保全】

- ・海・山の自然環境保全の取組推進
- ・安心安全な海水浴場の整備
- ・まちなかの魅力的な空間活用の制度運用と景観整備
- ・まちなか・観光拠点のごみ問題の解消の仕組み導入

二次交通手段の確保、渋滞や駐車、動線の不便は来訪者満足度を下げます。市民生活にも負担を生まないために、インフラの整備と併せて観光案内と防災情報提供を強化し、来訪者の快適性と安全性の確保を図ります。

【インフラ整備】

- ・市内移動の二次交通手段の確保
- ・交通渋滞解消に向けた駐車場と道路の整備
- ・観光施設整備の推進、道の駅の再編整備の推進
- ・観光客に対する防災対策の推進

【特に必要な事項】

観光振興と地域生活共存の観点から、特に必要な事項について以下に示します。年度での実施計画の整理及び推進体制構築の上で実行します。

安心安全な海水浴場の整備

目指すこと	下田の海水浴場がこれからも安心して来訪者を受け入れられる魅力的な環境であり続けること。
やること	海水浴場の水質の良さを維持すること、安全管理の実施、天候や津波等災害に対する安全の確保、防犯面での取組、交通安全などの取組、そのためのルール作りを推進します。また安心安全な海水浴場についての情報の見える化を進めます。
担当	観光交流課 防災安全課



黒船祭における交流拡大・認知度向上

目指すこと	黒船祭での市外来訪者との交流と、そのための認知度向上により、下田の観光魅力発信のきっかけをつくること。
やること	黒船祭の運営に関して、市外来訪者との交流の機会創出や来訪者誘致のためのプロモーションの推進に取り組みます。
担当	観光交流課



市内移動の二次交通手段の確保と、交通渋滞解消に向けた駐車場と道路の整備

目指すこと	地域の安全確保と来訪者にとっての快適な交通環境をつくること。
やること	交通政策と整合を図りながら、バス・タクシーやレンタカーやレンタサイクル、各種モビリティでの二次交通の確保に取り組みます。また、交通渋滞解消のための自家用車制限等のルール検討や代替手段の検討、駐車場や必要な道路改修などの整備を検討します。
担当	観光交流課 建設課



その3 施策の推進の観点

～観光まちづくりの推進体制構築・運営と、外部との関係構築の仕組みづくり～

観光まちづくりを推進する新たな担い手組織の構築を検討します。地域の関係者での共通の戦略を持ち、今後はマーケティングに基づく適切なターゲットの見極めと戦略的プロモーションを行う体制を整備し、単価向上や持続的な誘客の実現を目指します。また、下田市は下田市グローバルCITYプロジェクトやワーケーション推進などを通じて、関係人口創出に一定の成果をあげています。今後もサーフシティとしての魅力やデジタルノマドの受け皿としての環境を磨き上げ、国内外の人材や企業との新たなつながりを強化します。これにより、外部と有機的につながる開かれた観光都市としての基盤を確立し、下田市の観光まちづくりを持続的に発展させていきます。

【目指す姿】

- ・適切なターゲットの見極めの中で、戦略的にコンテンツ企画、商品・サービス提供、プロモーションができる体制を持つことを目指す。
- ・下田市グローバルCITYプロジェクトや下田市 SURF CITY 構想、デジタルノマドなど施策による外部との関係構築をさらに進めていくことを目指す。

【目指す姿に対する現状】

- ・望ましいターゲットの見極めと単価向上策の打ち方、プロモーションに取組の余地があり。
- ・観光まちづくりを継続的に担う機能・組織、その運営のための安定的な財源が不十分
- ・下田市グローバルCITYプロジェクトやワーケーションの取組を通じて、関係人口の創出の一定の効果が見られる

【方向性のイメージ】

戦略的に観光推進を行うための体制づくりの支援と合わせて、安定的な観光財源の検討を実施していきます。

【観光推進体制・財源の強化支援】

- ・観光まちづくりの推進を担う機能・体制の強化検討支援
- ・ガイド組織の育成と活動領域の拡大
- ・安定的な観光財源の検討

限られた資源を戦略的に投資していくために、マーケティング機能を拡充し、適切なターゲットの見極めと今後ますます重要となるインバウンド誘致にかかる体制強化を図ります。

【マーケティング機能の強化】

- ・マーケティング機能の充実による観光ターゲット見極めと適切なプロモーション、DX導入によるデータ収集分析推進
- ・ターゲット誘致にかかる体制強化

観光まちづくりを進めるためには市内だけでなく、外部との関係構築も必要です。そのために既存取組の拡充をさらに図ります。

【外部との関係構築支援】

- ・下田市グローバルCITYプロジェクトや下田市 SURF CITY 構想等、関係人口の受け入れの施策の継続推進
- ・美しい伊豆創造センターや県との連携

【特に必要な事項】

観光まちづくり推進の観点から、特に必要な事項について以下に示します。年度での実施計画の整理及び推進体制構築の上で実行します。

観光まちづくりの推進を担う機能・体制の強化検討支援

目指すこと	戦略を持って観光まちづくりの事業推進を行い、持続的な観光誘客、消費額の拡大、担い手の維持確保などの地域経営を行うこと。観光事業者をはじめ関係する主体の適切な連携が生まれること。
やること	観光まちづくり推進を担う組織の強化に向けて、現状の下田市で必要な機能の整理とその担い手の確保育成を行います。
担当	観光交流課



ガイド組織の育成と活動領域の拡大

目指すこと	観光まちづくり推進として、下田のオーセンティックを伝えることでの観光の魅力・価値の向上と地域消費の拡大を図ること。市民自ら、まちの価値を再発見すること。
やること	ガイド人材の確保育成、消費単価の向上につながるコンテンツの開発、ビジネスとしての持続につながるサービス供給の仕組みを構築します。従来の観光ガイドの枠にとらわれず、多分野でのガイド人材の確保育成に取り組みます。また中高生によるガイド育成、そのためのフィールドワークや学習機会の創出などの参画機会をつくります。
担当	観光交流課 生涯学習課



安定的な観光財源の検討

目指すこと	選ばれ続ける観光地域であるための戦略的で継続的な取組が必要とされる中で、安定的に取組の財源を確保し、観光振興とまちづくりを両立させること。
やること	財源の確保に対しての入湯税のあり方や宿泊税等の導入についての検討、必要な取組に対しての用途の設定、その政策判断の方法等について検討します。
担当	観光交流課 財務課 税務課



4 観光推進にあたっての横断的な事業展開のイメージ

本計画では、下田市の観光価値を「日常にある本物（オーセンティック）」と位置付け、地域の暮らし・文化・自然環境と一体となった観光まちづくりを推進します。「下田市グローバルCITYプロジェクト」の方向性も踏まえ、世界に通じる魅力と持続可能性を備えた新しい下田の創出を図るものとして、市民の学びや郷土愛をつくとともに、世界とつながりを持つこと、人材の循環を持つことにもつながる方向性を、分野横断的に展開することを考えます。

その実現に向けた3つの方向性の横断的な事業展開について以下2点を例にイメージを示します。

①1年間を通じた海の活用と保全

【方向性その1：観光産業振興・観光誘客の観点】

下田の象徴的な観光の価値である「海」の日常にある本物を見直し、体験価値としてまとめることを考えます。通年で海の価値を生かす視点から季節分散型のマリン・ネイチャー体験、スポーツツーリズム、海とまちなかの回遊セット、夜のまちの交歓コンテンツ等の体験に、水産物の水揚げやそこでの市民の日常の姿や祭りの姿を関連付けることも考えます。市は、ノウハウ・資金調達・実証の支援を通じて、宿泊数の増加と消費単価の向上を後押しし、観光消費額の拡大と通年平均化を図ります。

【方向性その2：まちづくり・地域の生活との共存の観点】

海を守る視点から、安心・安全な海水浴場の維持管理を継続し、海・山・まちなかの景観保全、ごみ問題の解消スキーム、二次交通の確保、渋滞・駐車対策を関係部局と連携しながら実施を検討します。また、観光の価値向上を持続可能なものとするためには、地域の生活や環境との共存が不可欠です。市民が楽しめる「海」のあり方を考えることで、来訪者満足と市民の安心の両立を図ります。

【方向性その3：施策の推進の観点】

上記の方向性を実行するために、下田の海が選ばれ続けるための戦略を持って観光施策を進めます。海の通年活用のための地域内での体制構築や関係者の納得感ある戦略づくりのためのマーケティングの強化が必要です。あわせて、外部との関係構築（広域連携・関係人口施策）を進めます。



②インバウンド誘致と消費拡大

【方向性その1：観光産業振興・観光誘客の観点】

インバウンドを誘致するにあたり、量による消費拡大ではなく単価向上による質を重視します。適切な戦略に基づいた、宿泊・体験・市内消費の拡大に資するオーセンティックに共感し、来訪者との関係づくりを重視します。地域資源のストーリー化及びコンテンツ開発への支援や宿泊と連動した滞在型商品の造成に向けた事業者間連携などを促進し、民間による高付加価値商品の造成を後押しし、体験単価・宿泊単価の向上及び滞在時間の延伸を図ります。

【方向性その2：まちづくり・地域の生活との共存の観点】

市民の日常が守られてこそそのオーセンティックな体験づくりのためには、多言語の案内・標識や防災・交通情報の見える化、二次交通の確保と渋滞・駐車対策を強化し、オーバーツーリズムを回避しながら良好な市民生活とインバウンド来訪者満足度確保の両立を図ります。また、外国人にとっての非日常である「下田の日常」を体験してもらうための市民との接点づくりについても検討します。

【方向性その3：施策の推進の観点】

観光推進体制と財源の強化のもと、ターゲット見極めに資するマーケティング機能を拡充し、戦略的なプロモーションと体験造成の支援を担う機能の検討を支援します。加えて、下田市グローバルCITYプロジェクト、下田市SURF CITY構想、関係人口施策等で作られている外部ネットワークを活用し、観光推進体制の強化、戦略的な誘致、消費拡大を図ります。



5 第3次下田市観光まちづくり推進計画の全体像

【観光まちづくりのコンセプト】

下田市の観光の価値は「日常にある本物」

下田のオーセンティックとして、変わらない地域の営みを残し生かす

その1 観光産業振興・観光誘客 ～民間事業者・市民による観光事業推進・観光まちづくりの拡大～			その2 まちづくり・地域の生活との共存 ～行政による市民の生活・文化・環境を守る仕組み・環境整備～			その3 施策の推進 ～観光まちづくりの推進体制構築・運営と、外部との関係構築の仕組みづくり～		
観光産業消費額の拡大支援		担い手発掘確保 育成支援	歴史文化の保全と周知	市内の環境整備・保全	インフラ整備	観光推進体制・ 財源の強化支援	マーケティング機能の強化	外部との関係構築支援
<ul style="list-style-type: none"> 観光消費額をさらに高めるための宿泊施設魅力化、通年型の観光、高付加価値化の仕組み構築 下田のオーセンティックを生かすコンテンツ・サービスなどマネタイズのためのノウハウ提供 	<ul style="list-style-type: none"> 事業者同士の情報共有、連携を促す交流機会の創出 	<ul style="list-style-type: none"> 観光事業の担い手人材の確保、雇用環境の改善の支援 事業継承・スタートアップの支援 	<ul style="list-style-type: none"> 下田の暮らしと文化について、市民への価値を再認識する機会の創出 観光来訪者と地元住民との交流機会の創出 黒船祭における交流拡大・認知度向上 伝統芸能の保全 	<ul style="list-style-type: none"> 海・山の自然環境保全の取組推進 安心安全な海水浴場の整備 まちなかの魅力的な空間活用の制度運用と景観整備 まちなか・観光拠点のごみ問題の解消の仕組み導入 	<ul style="list-style-type: none"> 市内移動の二次交通手段の確保と交通渋滞解消に向けた駐車場と道路の整備 観光施設整備の推進 観光客に対する防災対策の推進 	<ul style="list-style-type: none"> 観光まちづくりの推進を担う機能・体制の強化検討支援 ガイド組織の育成と活動領域の拡大 安定的な観光財源の検討 	<ul style="list-style-type: none"> マーケティング機能の充実による観光ターゲット見極めと適切なプロモーション ターゲット誘致にかかる体制強化 	<ul style="list-style-type: none"> 下田市グローバルCITYプロジェクトや下田市 SURF CITY 構想、関係人口の受け入れの施策の継続推進 美しい伊豆創造センターや県との連携強化

分野横断的な事業展開を実施

例) ①1年間を通じた海の活用と保全 ②インバウンド誘致と消費拡大